



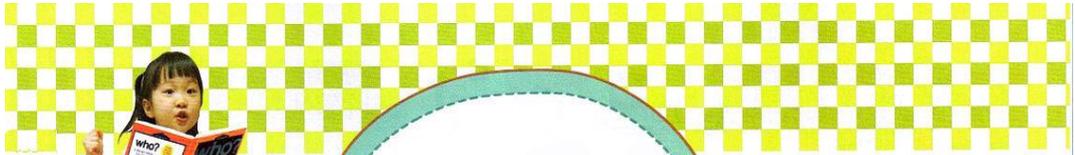
うばわれたことをとりもどそう

ローマ 16:25~27
私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現わされて、(25~26 上)



世界的なお金持ちビル・ゲイツは、つぎのように話しました。「私は Change から g を c に変えたことのほかに、したことはありません」すなわち、人は変化 (Change) するとき、チャンス (change) がくるとい言葉です。また、彼は「怠惰なことは成功の敵だ。大変でも小さいことでも最初から最後まで忠実にしなさい」という名言を残しました。成功は一つが上手にできるからといって手に入るのではなく、成功するしかない体質的なことがあります。

神様を離れた現場は、ニューエイジ、フリーメーソン、お寺での文化体験、瞑想運動のような悪霊文化と暗やみ文化に捕えられています。文化を掌握した暗やみ勢力は、私のたましいの状態を荒れはてるようにさせ、滅びるしかない場所に引っばっていきます。それで、私の考え、意識、無意識、潜在意識の中に、ただ福音で根をおろすようにして、福音で成功する場所にいるようにしなければなりません。福音が私の体質になって自然に出てくるとき、私をだましている暗やみの勢力が縛られて離れます。イエス・キリストの契約で私を成功するようにして、うばわれた現場を取り戻すレムナントになりましょう。



世の中を変えたコンピュータの帝王 ビル・ゲイツの話

だれもコンピュータを考へることもできなかったときに、少年ビル・ゲイツは、未来にコンピュータがかならず必要であることを知って、コンピュータを作る働きに一生をささげました。ビル・ゲイツの生活を見て、レムナントはなにに一生をかけるべきか、どんな成功の姿勢を持つべきかをフォーラムしましょう。



(訳者注：上に紹介している本は、韓国語のものです。日本語で、「マイクロソフトービル・ゲイツ (世界を変えた 6人の企業家)」という小学校高学年~中学生向きの本がありますが、絶版になっているので、手に入りにくいようです。図書館には置いてあるようですので、参考にしてください。)



サタンにうばわれた霊的な祝福を私のものとして取り戻して、味わうことができますように。イエス様があって、毎日、福音の根を下ろすことができますように。イエス・キリストのお名前によっておいのりします。アーメン



わたしもダビデの ようになります

I サムエル 16:13

サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油をそそいだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰った。

ダビデは羊飼いだったとき、福音がどれくらい貴重であるかが分かりました。羊を飼いながら、いつも神様を賛美して、主ひとりだけで幸せでした。それだけではなく、羊が草を食べている静かな時間に、ただ神様だけ見上げながら祈りました。そして、小さいことひとつであっても、たいせつにする態度ができました。神様がくださったことですから。ある日、大祭司サムエルがダビデの頭に油をそそいで、かならずイスラエルの王になるというビジョンを与えてくれました。ダビデは王になるということばよりも、かならず来られるキリストの契約が入った契約の箱がペリシテにうばわれた話をもっと心に刻まれました。この日くらい、ダビデは聖霊の満たしを受けて、毎日、ただ主だけを味わう中で、契約の箱がある神殿について祈りました。ダビデはサムエルを通してにぎったみことばを、毎日記憶して祈ったところ、ある日、神様をあかす位置に立つようになったのです。私たちもダビデのように、日曜の礼拝のみことばを契約でにぎって、毎日、祈りの中に入れてみましょう。ある日、イエス・キリストの証人として立つようになるでしょう。



★ きのうのみことば
エステル

★ きのうのいのり

★ きのうのてんどう

あけにち「きょう」
けさのきょう

かていれいはいフォーラムを わちあおう!

家族みんなといっしょに家庭礼拝をささげましょう。「子どもの祈りの手帳」のみことばであるサムエル 16:13のみことばをいっしょに声をだして読んで、下の質問で話合ってみましょう。

1. ダビデに主の霊が激しく下ったということは、
どういう意味でしょうか



2. ダビデはいつも祈って神様と話をしていました。
私はどのように24時間神様と話をすることができますか。



3. ダビデは、神殿建築の契約をにぎって、ふだんに
神殿のために祈っていました。
私に与えられた神様の契約はなんでしょうか。



ふだんにみことばを読んで暗唱して、適用しながら、信仰を備えさせてください。ダビデのように神様に用いられる、すてきな伝道者にならせてください。
イエス・キリストのお名前によっておいのりします。アーメン



パ~っと つよ~く

使徒1:1~8

しかし、聖霊があなたがたの上にお臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。(8)

1907年、ピョンヤンで大きなリバイバルがあり、それを通して北朝鮮は、東方のエルサレムと呼ばれるほど福音でいっぱいになったことがありました。しかし、今は暗やみでいっぱいになった死の土地になりました。イエスを信じれば殺され、飢え死にする人も数えられないほど多いです。なぜこのようになったのでしょうか。

日本が韓国を属国にしていたとき、キリスト教の代表者がピョンヤンに集まって、神社参拝は偶像崇拝ではないと決議しました。死ぬのがこわくて、そのような決定をしたのでした。こういう霊的背景があったので、戦争も起きて、子孫にのろいと災いがお臨んでいるのです。(出エジプト記20:4~5) そのようなときに、他の人が見ることができなかったことを見た人がいました。それは、チュ・キチヨル牧師先生です。偶像崇拝が何かを知っていたチュ・キチヨル牧師先生は死ぬことを覚悟して、神社参拝に反対しました。結局、牢屋で殉教しました。牧師先生の殉教は、福音運動が韓国の地に大きく起きるようになる基礎になりました。サタンは、今でも偶像と占い、宗教、文化を持って世界を掌握しています。チュ・キチヨル牧師先生のように、この目をパ~っと開いて、ただ福音だけを強~くにぎるようになりましょう。

2011. 2. 4 (核心訓練メッセージ)

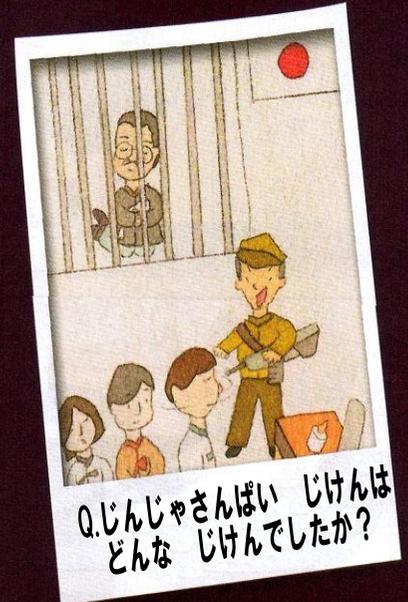


(かんの) キリストきょうかいの **れきし** を まなぼう! ピョンヤンのおおきなリバイバル**じけん** と じんじゃさんばいの**じけん**



Q.ピョンヤンでの **おおきな** リバイバルは **どんな** **じけん** でしたか?

A. ピョンヤンで大きなリバイバルが起きた事件は、1907年1月14日、ピョンヤンのチャンドヒョン教会で、宣教師と牧師が自分のあやまちをみんなの前で告白して、涙を流してわかれあつた事件です。宣教師と牧師がまず神様の前で悔い改める姿を見たピョンヤンの人々は、イエス様を信じて、神様にたちかえりました。



Q.じんじゃさんばい **じけん** は **どんな** **じけん** でしたか?

A. 日本が韓国に侵略して、支配をしていたときに、日本は韓国に日本の偶像におじぎをする「神社参拝」をみんなにさせました。日本の兵士は、韓国教会の牧師と信徒に神社参拝をするように言い、しないなら、牢屋に閉じ込めたり、信徒をひどい目にあわせて殺しました。このとき、最後まで神社参拝をしなかったチュ・キチヨル牧師と多くの牧師は殺されました。福音をにぎって、偶像の前でおじぎをしなかった、牧師と信徒がいたので、韓国は福音が伝わる事ができたのです。



父なる神様、この時代に働くサタンの権威を正確に見て、ただ福音だけをにぎって、ただ福音だけを伝えるレムナントにならせてください。イエス・キリストのお名前によっておいのりします。アーメン

2012年06月
01日
金曜日

イサクが もっていた かくしん

創世記26:12~22

イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。主が彼を祝福してくださったのである。

ある日、神様がアブラハムに息子のイサクを殺して、血のいけにえをささげなさいとおっしゃいました。イサクはなんのあやまちもないのに、理由なく死ぬ危機にあうようになったのです。アブラハムは、神様のみことばに従順にして、イサクを連れてモリヤの山に向かって出発しました。行くとちゅうで、イサクがお父さんに尋ねました。「お父さん、血のいけにえをささげるときには、羊が必要ですが、今日はなぜ羊を連れて行かないのですか」このとき、アブラハムはこのように答えました。「神様が準備しておられるよ」

山でアブラハムはイサクをひもでくくって刀を持って殺そうとしました。そのとき、神様はアブラハムを呼んで、イサクの代わりに雄羊を殺して、血のいけにえをささげなさいと告げられました。そのとき、ほんとうに近くに雄羊が茂みにひっかかっていた。アブラハムは、イサクの代わりに、雄羊を殺して神様にいけにえをささげました。この事件のあとで、イサクは「神様を離れた原罪で死ぬしかない自分の代わりに十字架にかけて死ぬイエス・キリストについて確信」しました。神様は福音を確信したイサクに百倍の実を得るようにされ、わき水の根源まで得るようにされたのでした。

3 Today



ていこくはいかに せいこうしたら チェックしよう ✓

せいくを 100 おぼえよう(9)

この方以外には、だれによっても救いはありません。



私たちはどんな確信がありますか。私たちがただひとりのゆえに救われるという確信がありますか。聖書箇所を覚えて、イサクが持った確信を私たちも持ちましょう。

この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。(使徒4:12)

天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は



人に与えられていないからです。



私のかわりに死んで、三日目によみがえられたキリストに対して確信させてください。そして、その福音を死んでいくたましいに伝えることができますように。イエス・キリストのお名前によっておいのります。アーメン



はなすのが いやです

おはなし もくそう

2012年06月
02日
土曜日

「あ・・・あの・・・これ・・・か・・・かして」

ミチトは「じまん話」の時間に、ハルキの話し方のまねをして笑いました。どれくらいハルキとにっていたのか、まわりの友だちは、足をばたばたさせながらおもしろがりました。しかし、顔をまっかにしたハルキはおもしろくありません。すぐに目になみだがつまりました。ことばをまねされるのはずかしいのですが、その瞬間、泣いてしまったら、友だちが自分をバカにするとおもうて、じっとがまんしました。気がつかない友だちは、ミチトにまたしてみても「アンコール」と叫びました。ハルキはもう涙をがまんできなくて、トイレに走っていききました。ハルキは、涙をふきながら心に決めました。もう二度とだれとも話さないかね。

まっ赤な顔をしているハルキのぷっくりとはれた顔を見て、ハルキのママが尋ねました。

「ハルキ、学校でなにかあったの。泣いたような顔だけど」

泣いたようだというママの一言に、ハルキはがまんしていた涙を出して泣きわめきました。普段にもことばがどもるのに、泣いているからよけいに分かりにくいことばで、ハルキは学校であったことをママに話しました。ところが、ハルキをなぐさめるとおもうったママが、急に今日の伝道現場であったこと

パパと少しけんかしたこと、弟を幼稚園に連れていったことを話すのでした。はじめはハルキもママがなぜそのように言うのかとおもって、ママが言う話を心から聞いてあげました。むだなことを言っていたママが、急にハルキをじっくりと見つめながら、幸せそうな顔で話しました。

「ハルキは、人の話を本当によく聞いてくれるから、いつも安心して話をするのが、いいのよ」

ハルキはとまどいましたが、ママの言うことがわかりました。ハルキは、ことばをどもるので、自分の話をするより、人々の話を聞いてあげることが上手になったようです。ハルキは、自分の短所が、友だちの話を耳を傾けて聞いてあげる最高の長所になることができることを悟ったのでした。

